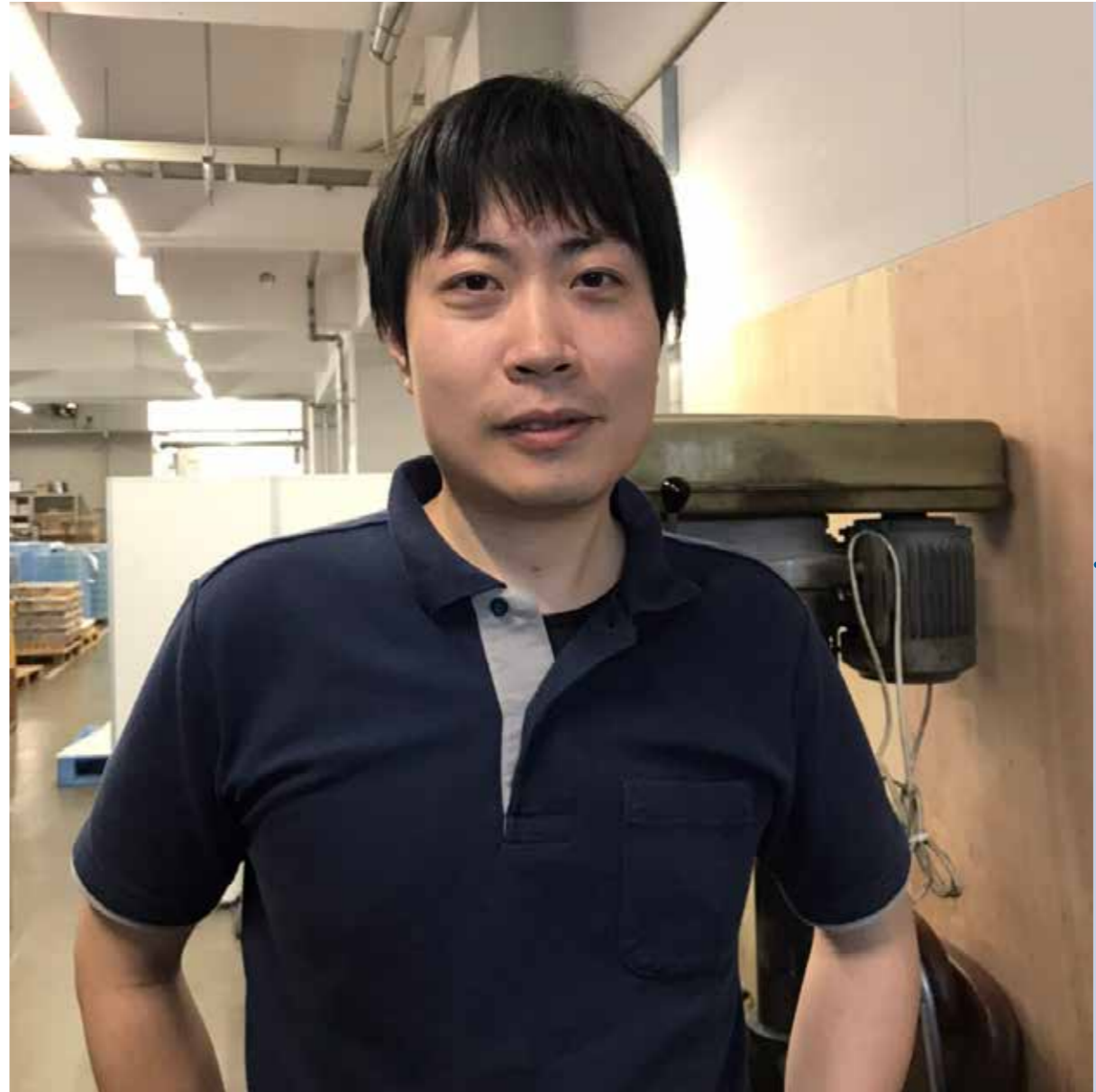


# チム九

印刷を支え加工を活かす

## 技術開発部門 技術開発部課長 中田 圭一

2002年(平成14年)に新卒で旭紙工業株式会社入社した中田圭一さん。現在は技術開発部門の技術開発部課長として、日々業務に奮闘しています。そんな中田さんに「これまで特に印象に残っている仕事や、今後の目標について伺いました。」



### 現在の技術開発部課長に就任されたのはいつ頃ですか。

2019年の6月です。以前は、技術開発部部長と専務を兼任する上司と2人で業務をしていたのですが、私が課長に就任して、半年ほどの間は1人で業務を行ってきました。2020年の1月に初めてベトナム人の社員を部下に持つことになり、4月にも新卒の社員が配属されることになったので、現在教育に力を入れているところです。

### 具体的な業務の内容を教えてください。

おもに現場の声を聞いて、作業がより効率よく、スムーズにできるよう機械を改良したり、検査装置を開発したりというのがメインです。

ただ、今は機械の台数がかかり多く、中には古いものもあるので、機械の修理が業務の大半を占めている状況です。もともと、上司と2人で業務にあたっていたときには、上司は開発をメインに、私はおもに修理を行っていました。現在は部下もで

業の環境を整えていければと思っています。

会社全体の作業効率アップを目指し、日々挑戦を続ける中田さん。常に前を見据えながら、一步一步、着実に歩みを進めていくことでしょう。



「—今までで自慢できる成果や、思い出に残っている仕事はありますか。」  
 一昨年から昨年にかけて新たな工場に移転したのですが、大きな機械も少しずつ移動をさせていて、私はその進捗管理を行っていました。その中で、得意先にもう使われていない中綴じ製本機があり、弊社に譲っていただけのことになったのです。私と、今はもう退職されたのですがもともと機械メーカーで働いていた従業員との2人で得意先に向かい、中綴じ製本機の解体をして、新しい工場でもた組み立てるという業務にあたりました。解体だけで2日、組み立てにはその倍以上の時間がかかりました。  
 社内の機械を触る際には、いつも上司である専務の立ち合いのもと行っていたのですが、このときは最初から最後まですべて任せてもらえ

「—では、逆に失敗された経験はありますか。」  
 現在の部署に異動する前、入社してから10年は中綴じ製本機の作業を担当していたのですが、そのときのことです。製本のためのセット作業から検品まで行っていたのですが、あるときセットが不十分だったせいで、ななめに歪んで製本された不良品を大量に作ってしまったことがありました。検品の際も気が付かず、最終的に何万冊という不良品を作ってしまった、金額的にも多くの損害を出してしまいました。印刷から刷り直しになったので、関係者の方々にもご迷惑をおかけしてしまって、申し訳なく、逃げ出したい気持ちになりました。  
 「—その気持ちをどう立て直しましたか。」  
 もうこのようなミスは絶対にしな

いと心に誓い、これまで以上に真剣に、毎日の業務に取り組みました。仕事上のミスは仕事で返すという気持ちで、ただ夢中で働きましたね。ちょうどその時期に結婚し、子どもが生まれ、家を買ったということもあり「ここで頑張らなくては」と踏ん張れたというのも大きいと思います。  
 「—最後に、今後の目標を教えてください。」

技術開発部門という部署があるがゆえに、現場で起こるさまざまな機械の不具合でも、その場で対処せず私たちに任せてしまうケースが多いと感じています。それを踏まえて、現場の機械に対するスキルを向上させるといのが、今の目標のひとつですね。できるだけ現場で修理やメンテナンスをしていただいて、どうしても手に負えないという場合、私たち技術開発部門にお任せいただくのが一番の理想です。  
 私たちは空いたタスクで、作業の省力化や効率化をはかるための装置の開発などに力を入れ、よりよい作

### 企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人



# 設備紹介 — スタールフォルダー —



工場の中で生産性が高くメインに稼働しているスタールフォルダー。今回は寺山さんに使用上の注意点、また工場内の達人をご紹介します。皆さん必見です！



私が紹介  
します！

工場本部 瓜破工場  
課長  
てらやま こうさく  
寺山 幸作さん

## 2種類

### Q.どのような機械なのでしょう？

今弊社にはラウンドフィーダーが9台、スタールフォルダーのミニサイズが4台あります。その2種類は紙の大きさで使い分けをしています。対応可能な紙の大きさは、ラウンドフィーダーは縦660cmまで、スタールフォルダーミニは縦360cmまでとなっています。

## ノンストップ！

### Q.特徴を教えてください。

他の紙折り機は紙が無くなったら都度、機械に積まなければいけません。しかしラウンドフィーダーとスタールフォルダーはノンストップで流れてくるところが特徴です。積む時間が必要無いので時間の効率化につながっています。

## 折り方によって 使い分け

### Q.機械はどのように使い分けていますか。

機械の使い分けは折り方です。スタールフォルダーは最大本体だけで6回折ることができますが、他の機械だったら最大10回折ることが可能です。蛇腹折りなどたくさん折るときは他の機械を使い、大口のものにはノンストップで処理できるラウンドフィーダーを使用しています。



## 花形的存在

### Q.どのような依頼をうけますか。

パンフレットに留まらず様々な依頼を受けています。最近はUSJの案内地図をスタールフォルダーで作りました。この機械は私が入社する前からあり、20年近くあると思います。工場の中では一番生産性があり、メインの機械です。

## セッティングは 30分の6

### Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか？

特に免許は必要ないのでメンバー30人全員操作することはできます。スタートボタンを押せば流れ作業でできるので、基本的には新人でも作業はできると思います。しかし機械のセッティングが難しく、できるメンバーはこの中で6人です。依頼に合わせてセッティングが必要な上、寸法や紙の厚さ、ローラーの圧を細かく見なければいけないので、経験を積むことがとても大切になってきます。

## 真面目な努力家

### Q.その中で一番「達人」は？

彼は折り機のセッティング操作ができる一人です。仕事に対する姿勢はとても真面目で、今は教える側に周り、新人を指導するとともに頼りになる存在です。私は彼が新人のころ指導していて、苦労を重ね努力している姿を側で見てきたので、彼の成長は嬉しいものがあります。折り機は「人に教えてもらって覚える」というより、「自分で経験を積んで覚える」ものだと彼の成長、自分の経験を通して感じています。

むらかみ ゆういち  
村上 裕一さん



## 指に注意！

### Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

とにかく怪我をしないように、特に指を挟まないように気をつけてもらっています。私自身いっぱい怪我をしてきました（笑）馬力があるので簡単に指が飛んでしまうこともあります。私はそこまでの怪我をしたことはありませんが、自分が指導するときは細心の注意を払うように伝えています。また業務においてセッティングにミスがあると、折り方を間違えた状態で続けてしまった経験があるので、目視で細かくチェックするように徹底しています。

## 思い出の 「のり綴じ製本」

### Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか。

入社して何年か経ったときに挑戦した「のり綴じ製本」が思い出に残っています。初めはセッティングに時間がかかったり、のりが他の物についてしまったり……マスターするまで色々な機械で経験を積み、自分の技術にするまではとても苦勞しました。折り機の最大の特徴は人によって完成するものが違うところだと思います。担当する人によって一人ひとりの色が出てきます。そこが面白さでもあり、難しいものを綺麗に出せたときの達成感は格別です。最近是指導の立場になり、完成した物を見てそれぞれの成長を感じています。目に見えて成長がわかるので経験を積むことの大切さを改めて感じています。

## 人材育成

### Q.今後の目標

個人の目標としては人を育てることを優先していきたいと考えています。オペレーターの教育計画があるのでそれにそって村上くんクラスの人材を育てていきたいと考えています。部署の目標は確認ミス、判断ミスをしないように徹底していきたいと思えます。人間なのでミスは出てきてしまいますが、そういったものを無くすためにもチェックを怠らず気を引き締めていきたいと思っています。